

「BRAIN and NERVE」第 62 卷 総目次

2010 年 (第 1～12 号)

頁数は通巻数, () 内は号数

(特 集)

〈神経救急〉

対談：日本における神経救急の現状と今後の展望

……………有賀 徹・内山真一郎・ 5(1)

脳外傷の現状 — 頭部外傷データベースを中心に

……………小川 武希

頭部外傷データベース検討委員会・ 13(1)

脳卒中救急の現状……………中川原譲二・ 25(1)

脳症状を呈する救急疾患の初療の現状と展望

……………畠本 恭子・横田 裕行・ 35(1)

小児の神経救急の現状……………長村 敏生・ 43(1)

神経救急に引き続く長期的な諸問題

……………富田 博樹・ 51(1)

神経救急とリハビリテーション — 地域における包括的

脳卒中診療のあり方

……………栗原 正紀・小笠原貞信・鮫島 光博・ 61(1)

〈ニューロリハビリテーションの最前線〉

Brain-machine interface の現在, 未来

……………牛場 潤一・ 101(2)

新しい機能的電気刺激によるニューロリハビリテーショ

ン……………原 行弘・ 113(2)

近赤外光スペクトロスコピーを用いたニューロリハビリ

テーションの評価

……………三原 雅史・矢倉 一

畠中めぐみ・服部 憲明・宮井 一郎・ 125(2)

リハビリテーション医療におけるロボット訓練

……………蜂須賀研二・ 133(2)

失語における脳機能画像とニューロリハビリテーション

……………安保 雅博・角田 亘・ 141(2)

ニューロリハビリテーションのための新しい定量的運動

指令評価システム

……………寛 慎治・李 鍾昊・鏡原 康裕・ 151(2)

〈神経回路解析法の最近の進歩〉

特集にあたって……………石塚 典生・ 205(3)

単一ニューロンの新しい解析手法 — ウイルスを用いた

標識法……………金子 武嗣・ 209(3)

狂犬病ウイルスによる多シナプス性神経路の解析法

……………高田 昌彦・井上 謙一・宮地 重弘・ 221(3)

発生工学的手法を用いた経シナプス性神経回路可視化法

……………吉原 良浩・ 233(3)

単離脳標本による神経回路解析法

……………梶原 利一・高島 一郎・ 243(3)

選択的細胞除去法と可逆的神経伝達抑制法による神経回

路解析アプローチ……………渡邊 大・ 255(3)

〈傍腫瘍性神経筋疾患 update〉

傍腫瘍性神経筋疾患とは — 定義と歴史

……………犬塚 貴・ 301(4)

傍腫瘍性神経症候群の発症機序……………田中 恵子・ 309(4)

傍腫瘍性神経症候群の診断と治療

……………佐治 越爾・河内 泉・西澤 正豊・ 319(4)

抗 NMDA 受容体脳炎に関する最新の知見

……………飯塚 高浩・坂井 文彦・望月 秀樹・ 331(4)

抗 VGKC 抗体陽性辺縁系脳炎/Morvan 症候群

……………三澤多真子・水澤 英洋・ 339(4)

細胞内抗原認識抗体陽性辺縁系脳炎

……………森田 昭彦・亀井 聡・ 347(4)

小脳変性症……………酒井宏一郎・ 357(4)

オプソクロモス・ミオクロモス症候群

……………松本 英之・宇川 義一・ 365(4)

傍腫瘍性網膜症・視神経症

……………井川 正道・栗山 勝・ 371(4)

Stiff-person 症候群とその他の脊髄症

……………石井亜紀子・ 377(4)

ニューロパチー……………三井 良之・楠 進・ 387(4)

Crow-Fukase 症候群……………桑原 聡・ 395(4)

免疫介在性ニューロミオトニア(Isaacs 症候群)

……………有村 公良・渡邊 修・ 401(4)

重症筋無力症 — 病原性のある自己抗体は何か

……………本村 政勝・ 411(4)

Lambert-Eaton 筋無力症候群……………鈴木 重明・ 419(4)

悪性腫瘍関連筋炎……………清水 潤・ 427(4)

〈神経画像のピットフォール — 見落としと読み過ぎ〉

頭部 CT と CT angiography……………高木 亮・ 461(5)

頭部 MRI……………佐々木真理・ 469(5)

- 中枢神経系 MR angiography …三木 均・477(5)
 SPECT と PET ……………水村 直・489(5)
 脊髄脊椎の MRI ……………森 壘・501(5)
 〈改正臓器移植法の問題点とその対応〉
 救急医の立場から……………横田 裕行・565(6)
 脳神経外科医の立場から……………永廣 信治・575(6)
 神経内科医の立場から……………寺山 靖夫・583(6)
 小児科医の立場から……………水口 雅・587(6)
 〈アルツハイマー病 — 研究と診療の進歩〉
 アルツハイマー病の治療戦略 — ワクチン治療の限界と
 次のステップ……………葛原 茂樹・659(7)
 アルツハイマー病の疫学 — 最近 10 年の傾向
 ……葛西 真理・中村 馨・目黒 謙一・667(7)
 アルツハイマー病の危険因子
 ……………池田 篤平・山田 正仁・679(7)
 病因分子としての β アミロイド
 ……………富山 貴美・691(7)
 アルツハイマー病発症におけるタウの意義
 ……………高島 明彦・701(7)
 危険因子としての生活習慣病
 ……………関田 敦子・清原 裕・709(7)
 MCI(mild cognitive impairment) の概念と症候
 ……………羽生 春夫・719(7)
 Posterior cortical atrophy の概念と症候
 ……………緑川 晶・727(7)
 アルツハイマー病の評価スケール
 ……………小早川睦貴・河村 満・737(7)
 日常診療におけるアルツハイマー病の画像診断
 ……………松田 博史・743(7)
 アルツハイマー病研究におけるアミロイド PET
 ……………石井 賢二・757(7)
 アルツハイマー病のバイオマーカー
 ……………松原 悦朗・769(7)
 アルツハイマー病の薬物療法……………東海林幹夫・777(7)
 アルツハイマー病の新規薬物開発の現状
 ……………田平 武・787(7)
 アルツハイマー病患者のケア……………博野 信次・797(7)
 〈辺縁系脳炎〉
 辺縁系脳炎 — 歴史, 症状, 最新分類
 ……………湯浅 龍彦・藤田 浩司・817(8)
 辺縁系脳炎とグルタミン酸受容体抗体
 ……………高橋 幸利・最上友紀子
 高山留美子・池田 浩子・今井 克美・827(8)
 抗 Ma2 抗体陽性脳炎と傍腫瘍性辺縁系脳炎
 ……………山本 知孝・辻 省次・838(8)
 非ヘルペス性辺縁系脳炎の臨床……………庄司 紘史・853(8)
 非ヘルペス性辺縁系脳炎の病理
 ……………望月 葉子・水谷 俊雄・861(8)
 HHV-6 脳炎……………吉川 哲史・869(8)
 〈視神経脊髄炎 (NMO) update〉
 NMO の疾患概念 — OSMS からの変遷と確立
 ……中島 一郎・藤原 一男・糸山 泰人・913(9)
 NMO の病態機序をめぐる新たな展開
 ……………三須 建郎
 高橋 利幸・西山 修平・高野 里菜
 中島 一郎・藤原 一男・糸山 泰人・921(9)
 NMO の頭部 MRI からみた臨床像の特徴
 ……………清水 優子・933(9)
 NMO の抗 AQP4 抗体からみた治療法の選択
 ……………越智 博文・945(9)
 NMO spectrum disorders と膠原病/悪性腫瘍/感染症
 ……………田中 恵子・田中 正美・953(9)
 AQP4 免疫染色からみた NMO と多発性硬化症 — 神
 経病理学的再考……………吉田 眞理・961(9)
 〈ブレインバンク〉
 ブレインバンクの現状と展望
 ……………村山 繁雄・齊藤 祐子・1013(10)
 ブレインリソースの現状 — 新潟大学脳研究所の取り組
 み……………柿田 明美・高橋 均・1019(10)
 公的ブレイン・リソースの構築 — リサーチ・リソース・
 ネットワークと生前同意に基づくパーキンソン病ブレ
 インバンク……………有馬 邦正・1025(10)
 国際的最先端ブレインバンクの現状と日本ブレインネッ
 ト構築への提言……………仙石 鍊平・1035(10)
 療養型病床群を基盤とする福祉村ブレインバンクと内外
 連携……………赤津 裕康・1043(10)
 現在本邦でアクセス可能なブレインバンクについて
 ……………齊藤 祐子・1053(10)
 〈歩行とその異常〉
 歩行と歩行障害……………柴崎 浩・1109(11)
 脳幹・脊髄の神経機構と歩行
 ……………高草木 薫・松山 清治・1117(11)
 移動行動における脊髄反射の役割
 ……………小宮山伴与志・1129(11)
 歩行における大脳皮質の役割
 ……………森 大志・中隋 克己・1139(11)
 歩行の制御における小脳機能……………柳原 大・1149(11)
 脳機能イメージングによるヒト歩行制御メカニズムの解
 明 — 大脳基底核皮質回路の役割を中心に
 ……………井関 一海・花川 隆・1157(11)

身体構造に内在する歩行の仕組み

……………大須賀公一・1165(11)

適応的な歩行運動のシミュレーション

……矢野 雅文・富田 望・牧野 悌也・1173(11)

ニホンザルのモデル化と二足歩行シミュレーション

……………荻原 直道・1183(11)

大脳皮質と基底核の障害に伴う歩行障害

……………武澤 信夫・水野 敏樹

……………瀬尾 和弥・近藤 正樹・中川 正法・1193(11)

小脳性の歩行障害……望月 仁志・宇川 義一・1203(11)

小児の歩行機能異常……………瀬川 昌也・1211(11)

歩行障害を中心とした深部脳刺激術

……………佐光 亘・1221(11)

歩行運動補助のための反射運動系の電気刺激装置開発

……横井 浩史・山村 修・小林 康孝

……………加藤 龍・中村 達弘・森下壮一郎・1227(11)

脳卒中患者の歩行障害のリハビリテーション

……………林 克樹・坂口 重樹・1239(11)

〈頸部頸動脈狭窄症の診断と治療〉

頸部頸動脈狭窄症の病態生理

……………山崎 昌子・内山真一郎・1269(12)

頸動脈狭窄症の画像診断

……清家奈保子・伊藤美智子・矢坂 正弘・1277(12)

エビデンスに基づく頸部頸動脈狭窄症の治療戦略

……………小笠原邦昭・1285(12)

頸動脈狭窄症の血管内治療

……………松丸 祐司・早川 幹人・1291(12)

頸部頸動脈狭窄症の外科治療(CEA)

……………陶山 一彦・永田 泉・1301(12)

〔総 説〕

わが国における医薬品医療機器の開発ならびに導入の現

況……………丸山 浩・近藤 達也・263(3)

筋萎縮性側索硬化症と言語障害

……………市川 博雄・河村 満・435(4)

改正「臨床研究に関する倫理指針」について

……………井本 昌克・511(5)

北米の抗てんかん薬

……………秋山 倫之・大坪 宏・519(5)

CARASIL の分子病態学 ……志賀 篤

……………野崎 洋明・西澤 正豊・小野寺 理・595(6)

緑取り空胞を伴う遠位型ミオパチーのモデルマウスと糖

化合物による治療……………野口 悟

……………マリクダン V.メイ クリスティン

……………西野 一三・601(6)

Williams 症候群を通して社会脳(social brain) を探る

……………長峯 正典・三村 将

……………リース アラン・ヘイフト 典子・877(8)

神経生理学からみた ALS の病態と治療展望

……………桑原 聡・885(8)

自閉症スペクトラム障害の脳科学 ― 社会性の障害に着

目して……………加藤 進昌・山末 英典

……………渡辺慶一郎・神出誠一郎・定松 美幸・975(9)

究極のブレインマシン・インタフェースと脳の可塑的

変化……………櫻井 芳雄・1059(10)

自己と他者 ― 社会脳科学の新しい枠組み

……………杉浦 元亮・1067(10)

間葉系幹細胞を利用したグリオーマの治療戦略

……………難波 宏樹・1075(10)

生後脳における神経新生(neurogenesis)の分子メカニ

ズムと精神機能……………吉崎 嘉一・大隅 典子・1315(12)

ATP 受容体チャネル P2X₂ の構造と機能の状況依存的

変化……………久保 義弘

……………藤原祐一郎・Batu Keceli・中條 浩一・1323(12)

〔原 著〕

紀伊半島南部地域における筋萎縮性側索硬化症 ― 和歌

山県内多発地域における最近の発症率の推移と臨床像

の変化

……紀平 為子・吉田 宗平・村田 顕也

……………石口 宏・近藤 智善・河本 純子

……………岡本 和士・小久保康昌・葛原 茂樹・72(1)

脳槽シンチグラフィにおけるトレーサークリアランス

と年齢……………浅利 泰広・堀越 徹

……………内田 幹人・渡辺 新・池川 博昭

……………梅田 貴子・荒木 力・木内 博之・165(2)

リバーミード行動記憶検査を用いた地域在住高齢者にお

ける記憶障害の検討

……品川俊一郎・豊田 泰孝・松本 光央

……………園部 直美・足立 浩祥・森 崇明

……………石川 智久・福原 竜治・池田 学・609(6)

〔症例報告〕

頸静脈孔症候群で発症する耳性带状疱疹

……小野 暢子・坂部亜希子・中島 雅士・81(1)

頭内爆発音症候群(exploding head syndrome) の1例

……………大倉 睦美・谷口 充孝

……………村木 久恵・杉田 淑子・大井 元晴・85(1)

頸動脈ステント留置術でデバイスを用いた穿刺部止血後

に総大腿動脈閉塞をきたした1例

……………林 健太郎

……………森川 実・堀江 信貴・諸藤 陽一

……………宗 剛平・陶山 一彦・永田 泉・173(2)

円錐上部症候群で発症し骨髄生検により診断した血管内リンパ腫の1例
 ……津川 潤・坪井 義夫・井上 展聡
 石塚 賢治・竹下 盛重・山田 達夫・269(3)
 マムシ咬傷により複視・眼瞼下垂をきたした1例
 ……………猪狩 龍佑
 伊関 憲・阿部 さち・東海林正邦
 佐藤 恵・下村 慶子・林田 昌子
 杉浦明日美・岩下 義明・緑川 新一・273(3)
 特発性中脳水道狭窄症による閉塞性水頭症に対する V-P シェント術の1年後から急速に進行する parkinsonism を呈した1例 ……………櫻井 岳郎
 木村 暁夫・山田 恵・林 祐一
 田中 優司・保住 功・犬塚 貴・527(5)
 降圧治療の中断後に発症した reversible posterior leukoencephalopathy syndrome の1例
 ……中嶋 浩二・小倉 祥之・大石 敦宣
 糸川 博・加藤 晶人・岡本 紀善
 森谷 匡雄・野田 昌幸・藤本 道生・533(5)
 脳動静脈奇形に対するガンマナイフ治療10年後に症候性放射線壊死をきたした1例
 ……西村 文彦・本山 靖・飯田 淳一
 朴 永銖・平林 秀裕・中瀬 裕之
 榊 寿右・南 茂憲・都築 俊英・539(5)
 インフルエンザワクチン接種後に単純ヘルペスウイルスが原因と考えられる辺縁系脳炎をきたした1症例
 ……………内海 雄思・井関 栄三
 村山 憲男・一宮 洋介・新井 平伊・615(6)
 視野障害を呈した扼頸後遅発性低酸素脳症の1例
 ……………今村 恵子
 秋藤 洋一・紙谷 秀規・中島 健二・621(6)
 経時的に詳細な言語機能評価をした運動ニューロン疾患を伴う意味性認知症の1例……………木藤友実子
 数井 裕光・吉田 哲彦・久保 嘉彦
 高屋 雅彦・徳永 博正・武田 雅俊・625(6)
 腫瘍摘出後に一過性有形性幻視をきたした右側頭頭頂部髄膜腫の1例
 ……吉村 政樹・内山 良則・金子 彰
 林 紀子・山中 一浩・岩井 謙育・893(8)
 運動障害を伴う孤発性三叉神経症を呈した橋被蓋部小梗塞の1例……………上杉 政司
 中山 尚登・東 真由・鈴木 倫保・987(9)
 文字処理過程における運動覚の役割——左頭頂葉損傷による失読失書例の検討
 ……遠藤 佳子・鈴木 匡子・平山 和美

藤井 俊勝・隈部 俊宏・森 悦朗・991(9)
 前大脳動脈解離性動脈瘤を合併した Rubinstein-Taybi 症候群の1例
 ……石坂 俊輔・宗 剛平・諸藤 陽一
 林 健太郎・北川 直毅・立石 洋平
 森川 実・陶山 一彦・永田 泉・1083(10)
 Postictal fever と postictal pleocytosis を呈したテオフィリン関連痙攣発作の1例
 ……谷口 昌光・谷口 央・毛利 渉・1089(10)
 再発に伴い難治化した抗 VGKC 抗体陽性脳炎の1例
 ……藤盛 寿一・遠藤 実・入野 樹美
 志賀 裕正・白石 裕一・本村 政勝
 丹野 尚・久永 欣哉・糸山 泰人・1252(11)
 脳実質異常を呈し腫瘍との鑑別を要した静脈性血管奇形——3症例報告と文献的考察
 ……………森田 隆弘・清水 宏明
 隈部 俊宏・斉藤 敦志・富永 悌二・1331(12)
 アムホテリシンBリポソーム製剤およびボリコナゾールが奏効した高齢発症のクリプトコッカス髄膜炎の1例
 ……………大垣光太郎・野田 和幸
 深江 治郎・古谷 剛・平山 喬
 藤島 健次・服部 信孝・大熊 泰之・1337(12)
 (神経画像アトラス)
 一侧の視床・線条体病変を認めた深部脳静脈血栓症の1例……………新島 悠子
 小鷹 昌明・中村 利生・平田 幸一・177(2)
 片麻痺を呈した遅発性放射線脊髄症の頸髄 MRI 所見
 ……………渡邊 由佳・小鷹 昌明
 中村 利生・橋本 禎介・平田 幸一・278(3)
 Caudal paramedian midbrain syndrome の1例
 ……………池田 剛・浅川 弘之
 角田 孝・小林 栄喜・谷中 清之・442(4)
 HTLV-I 関連多発根神経炎の MRI
 ……………岩波 久威・辰元 宗人
 平田 幸一・滝口 義晃・犬飼 敏彦・633(6)
 Euthyroid で発症した甲状腺眼症
 ……蒲澤 千昌・丸山 健二・小林 正樹
 清水 優子・岩田 誠・内山真一郎・804(7)
 MRI の STIR 法で描出された視神経管骨折のない外傷性視神経損傷の1例……………有島 英孝
 磯崎 誠・竹内 浩明・菊田健一郎
 山元 龍哉・植松 秀昌・木村 浩彦
 高村 佳弘・久保 江理・赤木 好男・898(8)
 Galen 大静脈に静脈瘤を伴う脳静脈性血管腫の1例
 ……中嶋 浩二・糸川 博・大石 敦宣・998(9)

口周囲に限局した異常感覚(isolated oral syndrome) を呈した視床ラクナ梗塞の1例
佐治 直樹・多々野 誠
 清水 洋孝・瓦井 俊孝・喜多也寸志・1094(10)
 (Neurological CPC)

認知症を伴った Parkinson 病 85 歳男性例
吉村菜穂子
 本間 琢・村山 繁雄・織茂 智之・635(6)

純粋自律神経不全症で発症, Parkinson 症状と進行性の前頭側頭葉萎縮を示した 83 歳男性
足立 正・今福 一郎
 角田 幸雄・村山 繁雄・河村 満・1343(12)
 (Neurological CPC 付録解説)

DLB, FTLT の分類中野 今治・1352(12)
 (学会印象記)

International Stroke Conference 2009(2009 年 2 月 17 日～2 月 20 日, サンディエゴ)
末田 芳雅・190(2)

XIV World Congress of Neurological Surgery of the World Federation of Neurological Societies (WFNS)高橋 弘・192(2)

Third International Research Workshop on Frontotemporal Dementia in ALS(2009 年 6 月 21～25 日)河村 満・280(3)

第 18 回 WFN 世界 Parkinson 病と運動障害関連学会: XVIII WFN World Congress on Parkinson's Disease and Related Disorders(2009 年 12 月 13～16 日)
井上 学・646(6)

20th International Symposium on ALS/MND
山中 宏二・803(7)

International Stroke Conference 2010(2010 年 2 月 23 日～2 月 26 日, サンアントニオ)
内山真一郎・901(8)

World Federation of Neurology Research Group of Aphasia and Cognitive Disorders(WFN-RGACD)(2010 年 5 月 15 日～18 日, イスタンブール)
小早川睦貴・1000(9)

International Neuropsychological Society Mid-year Meeting 2010(2010 年 6 月 30 日～7 月 3 日, クラクフ)
鶴谷奈津子・1096(10)

MDS (Movement Disorder Society)-14th International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders浅沼光太郎・1356(12)

(連載 神経学を作った 100 冊)

- (37)シャルコー(2)「脳脊髄疾患局在学講義」(1876-1880)
作田 学・90(1)
- (38)シャルコー「サルベトリエール病院火曜講義」(1887-1888)作田 学・194(2)
- (39)アイトキン「生理学原理」(1838)
作田 学・290(3)
- (40)アバーネシー 外科的観察——体質に起因する局所疾患とその治療(動脈瘤も含めて) 第 6 版(1822)
作田 学・450(4)
- (41)ガル, スプルツハイム『中枢神経系全般, 特に脳についての研究』(1809).....作田 学・554(5)
- (42)クウェイン『解剖学原理』(1828)
作田 学・648(6)
- (43)アンドラル 病理解剖学概説(1829)
作田 学・806(7)
- (44)ブラウン・セカール『中枢神経系の生理学と病理学の講義録』(1860).....作田 学・904(8)
- (45)カルメイユ『精神病者における麻痺についての考察』(1826).....作田 学・1002(9)
- (46)マジャンディ『生理学基礎提要』(1816-1817)
作田 学・1098(10)
- (47)チャールス・ベル『人体の解剖学: 脳神経系』(1803-1829)作田 学・1258(11)
- (48)レマーク『神経系の解剖と顕微鏡的観察』(1838)
作田 学・1358(12)

(このヒトに聞く)

未開の荒野でロボットと出会う
川人 光男・岩田 誠・181(2)

はじまりは「内科の神経学」——日本神経学会 50 年の歩みとともに.....荒木 淑郎・糸山 泰人・281(3)

戦後神経学のあけぼのとその後の発展——スモンに始まる神経難病研究の貢献(前編)
祖父江逸郎・岩田 誠・445(4)

戦後神経学のあけぼのとその後の発展——スモンに始まる神経難病研究の貢献(後編)
祖父江逸郎・岩田 誠・545(5)